

デューウィー・ジョナサン

フランシスラテ先生

JPN-401

2023 年 12 月 5 日

山田苑幹の「X ジェンダー」記事に関するレポート

この記事内で、山田先生は性別文学を分析することや X ジェンダー者と目説することによる X ジェンダーについてご説明になった。この研究は X ジェンダーについての新しい洞察を発見した。このレポートはその洞察が面接しよう。

説明の前に、大切な定義について話して頂く。X ジェンダーは「男性でも女性でもない」と認識しているあり方、男女のいずれかというわけではない性別、あるいは、男女二元論的な性別の感覚をもたない人々など」と定義された。トランスジェンダーは生まれた性別も体の姿も変えたい人々である。この言葉は同じないから、X ジェンダーとトランスジェンダーは別々な観念として考えているべきだ。

記事の要検討を話しよう。最初は、山田先生は「GD」と「GID」の定義の違いはご説明になった。一方で、GD は「その人により経験または表出されるジェンダーと、指定されたジェンダーとの間の不一致に伴う苦痛」と定義されている。他方で、GID は「自分の性別に対する持続的な不快感を伴う、反対の性に対する強い持続的な同一感」と定義された。その違いは、「GID」には一存在者としてトランスジェンダーと X ジェンダー観念を結合しまつて「GD」にはその観念が別々なものを信認する。

「GD」はトランスジェンダー者も X ジェンダー者も含めるから、多くの日本人は X ジェンダーがトランスジェンダーの一部として考えられている。この考える方は X ジェンダー者のために無感覚である。これは、X ジェンダー者がこの「X」の使い方から派生される。トランスジェンダーの用語では、自称するために、「FTM」や「MTF」言葉が使われている。例えば、女性として生まれたが男性になる人は「FTM」という。同じ

ように、X ジェンダーの用語(ようご)では、「FTX」や「MTX」言葉が使われている。

「X」の使い方にもかかわらず、まだ X ジェンダーとトランスジェンダーは同じ観念ない。

X ジェンダーは、3 つ類型をもって複雑な観念である。それぞれの類型は性自認について X ジェンダー者の気持ちである。それ類型は、「過渡型」と「揺曳型」と「積極型」である：

1. 「過渡型」は、「両性やどちらでもない性別であると自己をみなす人々」と定義されている。
2. 「揺曳型」は「性自認が揺れているので、男性でも女性でもなく両性やどちらでもない性別である人々」と定義されている。
3. 「積極型」は「自己が規定されない X ジェンダー・アイデンティティであることに積極的な意味を見出しておる人々」と定義されている。

ある X ジェンダー者は、すべての類型を超えるが、一つの類型のままで満足する X ジェンダー者もいる。

最後は、山田先生は S さんと K さんと名称をつける二つの X ジェンダー者のご面接になった。面接した時、受ける人は X ジェンダー観念の同様の意見を分け合った。そのは、両人は社会が X ジェンダー観念に理解不足するため、「社会では GD が障害(しょうがい)」と感じている。なお、「GD」はトランスジェンダー者も X ジェンダー者も含めため、両人は「X ジェンダーと名乗ることのは便利」と感じている。最後、男女のいずれかというわけではないため、両人は「彼らの性別は彼に大事」と感じている。

結論として、山田先生は「GD」と「GID」の違いをご説明になって、トランスジェンダーと X ジェンダーの違いをご説明になって、X ジェンダー特徴をご定義になって、X ジェンダー者の意見をお聞きになった。結果として、X ジェンダーについて深い洞察を学んでいた。